

# 番組審議会

## 第637回

令和2年4月

### ■審議会の構成

委員総数 10名

委員長 音 好 宏

副委員長 中 江 有 里

委 員 江 澤 佐知子 尾 縣 貢  
萱 野 稔 人 喜田村 洋 一  
佐 藤 智 恵 長 嶋 有  
藤 原 帰 一 水無田 気 流

TBSテレビ 佐々木 社 長  
國 分 常務取締役  
伊佐野 取締役  
合 田 編成局長  
本 田 報道局長  
志 賀 情報制作局長  
荒 牧 情報制作局情報一部長  
渡 辺 制作プロデューサー  
中 山 編成考査局長  
鈴 木 編成考査局視聴者サービス部長  
岩 村 番組審議会事務局長

- 今回の審議会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、一堂に会しての会合とせず、各委員が意見表明の書面を提出し、それをもとに意見を交換した。

## ■議事概要

### (1) 審議事項

#### 1) 「新・情報7days ニュースキャスター」

3月28日放送分

#### 2) その他

### (2) 報告事項

#### 1) 番組種別公表制度に基づく2019年10月から、

2020年3月までの放送実績について

### (3) 事務局報告事項

#### 1) 視聴者からの声について

#### 2) 次回審議会の議題及び日程について

## 【委員の主な意見】

(「新・情報7days ニュースキャスター」について)

- 医療従事者でさえマスクが不足する中、「マスクを付け慣れないから云々」という冒頭のMCコメントは医療従事者として耳ざわりの良いものではなかった。
- ビートたけしさんは、この回ではあまり存在感がなかった。コメント自体が意味を持つものではなく、また風刺するものでもなく、笑いを誘い雰囲気を作るものでもなかった。
- ビートたけしさんについて。もはや象徴として「いて」くれるだけでいいのかもしれない。でも、ごく単純に、もう少し彼の言葉を聞きたい。宇宙や歴史について、深い考察のある人なので余計に。
- 安住アナの気弱なニヒリズムが味を持つようになってきた。際どい発言を行いつつ、単なる露悪や偏見に走ることはしないという危ない橋を軽々と渡っている。

- コメンテーターのピーター・ランダースさんが良かった。MCの二人とはまた違った「旨味」があり、視点がユニークで、番組のダイバーシティに貢献している。
  - 東京五輪延期に関する、エコノミストのコメントに疑問を感じた。「オリンピックの延期で報道される期間が伸びたのでプラス」「新たな需要が生まれる」といった考えは、安易でエビデンスに欠けるし、現実的でない。延期のための追加費用の問題があるなかで、少し強引ではないか。
  - この番組に限らず、テレビの情報番組は、ネットの話題、映像に頼りすぎに思える。この番組も、「テレビで取り上げた時間」でなく「検索数」をランキングにしている時点で、すでにそれが世の趨勢なのだろうが。テレビがネットに従属しているというか、顔色をうかがっている風に見える。テレビ自体の矜持を感じたい。
  - 専門家が用いる専門用語が英語のまま使用され、説明を難解にしていた。オーバーシュート、ロックダウンなど、なぜカタカナで分かりにくくする必要があるのか。非常事こそ、誰でも理解が容易な説明が求められる。
  - 「世界で『若者の行動』が問題に」「『怖がらない若者』に高齢者は？」等の作り方は、たしかに分かりやすいが、若干「答え、先にありき」で、安易に世代間の軋轢を生むのではないか。本来は一人一人の危機意識の問題であり、世代間の分断を取り上げることへの制作サイドの危機意識はないのだろうか。
- \* TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。 (TBSテレビ番組審議会事務局)